



開田小学校だより



令和4年6月24日（金） 文責：北原 健吉



5月31日（火）民生児童委員小中合同懇談会



「生き生きと学ぶ子どもたちを見て安心していただけたでしょうか」（校長）



「思いやりをもって協力して、勉強に部活にがんばっています」中学校生徒指導からの報告

小中合同による民生児童委員さんとの懇談会が行われました。会に先立って行われた授業参観では、子ども達の学ぶ姿に「小学生が英語で授業をうけていたね」「低学年楽しそうに勉強していた」などたくさんの感想をいただきました。

懇談会では、小学校・中学校での児童・生徒の様子や、課題について意見交換を行いました。「自分の意見を主張する力が弱い」という課題も出されました。今後、授業を工夫してまいります。地域、学校、行政が育てたい子ども像について話し合う貴重な機会になりました。

6月1日（水）外国語研修



「オールイングリッシュの研修はきついです…」



英語のほとんどは対話活動

外国語研修会を行いました。ALT のトム先生とトム先生の所属先の清水先生とジェシー先生と、外国語の授業の作り方を学びました。ジェシー先生が「子どもたちのことを一番知っているのは先生達です。だからこそ、授業の中の場面設定では、子どもたちの思考を理解し、自然な流れで、英語を使ってみようと思えるのです」と語っていました。英語が得意かどうかよりも、子どもたちの日常生活などを理解し、子どもたちと先生と一緒に英語を使う楽しさを味わうことの重要性を感じた研修になりました。

6月17日（金） 校内音楽会



6月17日（金）に校内音楽会を実施しました。多くの保護者の方に鑑賞していただき、子ども達は緊張しながらも、練習の成果を十二分に発揮できたと思います。放課後の職員室では、先生方が、それはそれは嬉しそうに子ども達の頑張った姿をたたえあっていました。おそらくそれぞれのご家庭でも沢山ほめていただいたことと思います。子どもたちにとっても、先生にとっても大勢の前で発表する音楽会のプレッシャーはかなりのものです。しかし、だからこそ、「もっと上手になりたい…」という気持ちも生まれ、音楽会が終わった後には、今までは少し違う「やり遂げた自分」に出会うのではないのでしょうか。PTA 有志と6年生のコーラスも花を添えていただきありがとうございました。



その後行われた、PTA 救命法講習会にも大勢の方に参加していただきました。木曾消防署の 4 名の方を講師に、心臓マッサージのやり方、AED の取り扱いなどについて人形を用いて研修しました。事故が起こらないための予防には最善をつくします。同時に万が一の時には、救急車到着までの 30 分間を無駄にすることなく、冷静に対応できるように救急法の動きを頭の中で復習しておきたいと思います。

保護者の皆様にはプール当番等でお世話になりますがよろしく願いいたします。

6月18日（土） PTA 親子作業



18日（土）にPTA親子作業が行われました。大勢の保護者の方、開田高原コミュニティースクールの方、子ども達の協力のもと、学校周辺の草刈りや、教室のワックスがけ、プール設備の整備が行われました。最後の校長先生のお話にもありましたが、こんなに大勢の方にあつまっていただき、さらにこんなにも働ける開田小の子ども達の姿に、「開田小学校は素晴らしい学校だ」そんな思いを新たにしました。

保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

6月21日（火）フランチの会 パネルシアター



昨年度木曾老人大学でパネルシアターを学ばれた梅戸さんを中心としたフランチの会の皆様によるパネルシアターが行われました。はじめにあやとりをみんなで行いました。1、2年生は一本のひもから、色々な形が出来上がる不思議さを味わいました。その後のパネルシアター「うさぎさんがきてね」を見て、色々な動物に名前を付けました。1、2年生の笑い声が図書館中に響きました。

<保護者の皆様へ>いじめ・暴力行為アンケート（5月）の結果から

1学期のいじめ・暴力行為アンケートでは、児童から5件、保護者から2件の報告を受けました。関係した児童から話を聞いたり、生徒指導委員会で対応を検討したり、保護者と連携したりして、個別に支援・指導を行いました。

いじめ・暴力アンケートを実施するようになってから一年以上経過し、開田小学校の状況は大変安定してきたと感じております。アンケートにつきましては、学期に一度程度の実施にしていきたいと考えます。なお、緊急性の高い事案につきましては、これまで同様、担任、校長、教頭などお電話等でご相談いただければと考えます。

なお、いじめの早期発見、SOSの出せる大人との信頼関係、子ども同士で人間関係のトラブルを解決できる力の育成、コミュニケーションスキルの向上（「やめて」「ごめんね」の言える子ども）などにも力を入れていきたいと考えています。ご家庭のご協力をお願いすることも多くなるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

校長室だより

令和4年6月

林 久美

開田高原の小学校に赴任して3ヶ月が過ぎます。初めてこの地を訪れた時の寒さ（今もときどき寒いです…）、高原の美しさ、仰ぎ見る御嶽山の神々しさは、忘れようもなく、今も色あせることはありません。そして、それらが季節によって様変わりすることに毎日目を見張るばかりです。開田高原の文化や伝統、昔の暮らしを聞きかじり、ここで暮らす人々、草花や野鳥、そして木曾馬たちとも少しずつ顔見知りになってきました。開田小の子どもたちも全員名前を呼べるようになり、学年を超えて元気に遊び、先生を心から信頼して一生懸命学ぶ子どもたちと共に、開田の地がどんどん好きになっていきます。

さて、コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度 略してCSと書きます）という言葉が保護者の皆様、地域の皆様はご存知でしょうか。簡単に言うと、「学校の運営に地域が参加し、学校を地域づくりの拠点としていく」制度です。

先日、本校では、通学路の安全点検が行われました。そこで出た意見から、木曾町警察署や開田支所、交通安全協会の皆さんのお力添えで、2箇所横断歩道に横断旗が設置されました。点検から設置まで1ヶ月もかからないスピード感にびっくりしました。また、PTA親子作業の規模の大きさ、参加者の多さにも驚きました。日々、地域の方に支えられて学校があることを感じます。他にも、朝や夜の校庭でサッカーや陸上の指導をしてくださる方、放課後の見守り、読み聞かせやパネルシアター、音楽や家庭科の授業ボランティア、クラブ活動など、大変多くの方に開田小学校の子どもたちのためにお力を貸していただいています。CSは、こうした取組をさらに組織的に持続可能なものにするための制度と言ってもいいかもしれません。

予測困難な時代を生き抜く子どもたちの生きる力を、地域ぐるみで育成していただきたいと思います。そのためには、開田の自然と文化・伝統、ここに生きる人々の素晴らしさを、他でもない子どもたち自身が語れる人になることです。地域の皆さんのお力をお貸しいただきたいと思っております。

開田小を応援してくださる方たちの名簿をつくっています。まずは、学校に遊びに来てください。

